

仲間意識を育てる保育について考える
～「川」をテーマにした
豊かな体験活動を通して～



社会福祉法人 愛護会

たんぽぽ保育園

保育士 佐藤 奈穂美

1 研究主題

「仲間意識を育てる保育について考える」
～「川」をテーマにした豊かな体験活動を通して～

2 主題設定理由

男児18名、女児6名、計24名のクラスを昨年度より担任している。5歳児になり、友達との関わりがより楽しくなり、友だちを誘い合って鬼ごっこや虫探しなどを楽しむ姿が多く見られる。その中で、H男は、いつも園庭の隅で虫探しをしている。H男にクラスの友だちと一緒に遊ぶ楽しさを知らせたいと考え、何に興味を持っているか見ていると、「川」のことに詳しいこと、お父さんと一緒に川めぐりをしていることがわかった。

保育所保育指針には、「おおむね6歳になると、これまでの体験から、自信や、予想や見通しを立てる力が育ち、心身ともに力があふれ、意欲が旺盛になる。仲間の意思を大切にしようとし、役割の分担が生まれるような協同遊びやごっこ遊びを行い、満足するまで取り組もうとする。様々な知識や経験を生かし、創意工夫を重ね、遊びを発展させる」と記されてある。そこで、「川」への園外保育を計画し、H男の知っている情報を教えてもらいながら、クラス全員の共通関心を持たせることで、遊びや活動が高まるのではないかと考え、本主題に取り組むこととした。

3 研究のねらい

- ・H男の興味関心を把握しながら、友だちと楽しく関われるような保育の工夫と援助のあり方を探る。
- ・同じ体験を繰り返すことで、一人ひとりが意欲的に活動し、仲間意識が育つような保育のあり方を探る。

4 研究の仮説

- ・H男の興味関心が何かを探り、保育活動へとつなげていくことによって、H男の自信が高まり、意欲的に友だちと関わろうとするようになるのではないか。
- ・一人ひとりの姿をしっかりと認めながら、H男と友だちのつながりが上手にできるよう援助することで、仲間意識も育ちクラス集団が高まるのではないか。

5 研究の内容と方法

- ① H男の遊ぶ様子を見たり、話を聞くことで、興味関心が何であるか知る。
- ② 一人ひとりが意欲的に活動できるような保育実践の展開

6 研究の実際

(1) H男の興味関心を知る

H男は川に興味関心が強く、家では図鑑を見たり、父親と一緒にあちこちの川を実際に見に行っていることを知った。そこで、園外保育で川が見えるころへ出かけ、H男の「川」の知識をクラスみんなに伝えることで、クラスみんなの共通体験になり、お互いに仲間意識が芽生えるのではないかと考えた。

(2) 保育実践

<実践その1> 川に行ってみよう！

園外保育① 桜つつみ公園（金ヶ崎町）——川がつながっているよ——

子どもの姿	保育者の援助
<p>・お花見遠足でとても楽しみにしている子どもたち。川の話にも興味を持って聞いている。</p> <p>・保育者の話にH男も「いいよ」と得意になって約束する。</p> <p>・公園に着き、すぐに川を見つける。</p> <p>保「H男くん、この川なんていう川か知って いる？」</p> <p>H「知っているよ！ここは しゅくないがわ！」</p> <p>K「H男くんすごいね！」</p> <p>・川が合流している様子を見て</p> <p>S「わー すごい！」「こっこの ほうがながれが はやいね」「H男くん こっこのかわはなんていうの？」</p> <p>H「ここは きたかみがわだよ。しゅくないがわと つながっているんだよ」</p> <p>と自分からみんなの前で話す。</p> <p>M：「へーHくんは、かわ はかせだ」</p> <p>まわりのみんなも「そうだね」と感心している。</p>	<p>・事前に桜つつみ公園は、昨年も行っていたことがある場所であること、川があったことも伝える。又、H男が川に詳しいことも話し、H男にも「川のことみんなに教えてね」と声をかける。</p> <p>・川を見つけるとみんなが興味を示すので、意図的にH男に声かけ質問する。H男が答えながら、友だちと楽しくできる雰囲気にしていく。</p> <p>・北上川との合流地点を間近で見える場所に連れて行き、気づかせていく。</p> <p>・H男の話す姿に、「すごい！さすがH男くん 川の名前よく知ってるね」 とみんなの前でH男の得意な面を認めていく。</p>

(考察)

・実際に川を間近で見たり、H男に川のことをみんなに教えてもらう機会をつくった

ことで、H男も友だちを意識する様子が見られた。

- ・ふたつの川の合流地点を見ることで、クラス全員が川に興味を持ち、H男と友だちとの共通の興味を持つことにつながることができた。

園外保育②（5月16日）北上川（金ヶ崎橋江刺側）——川原であそんだよ——

さらに川への関心をつなげようと、石投げ・石拾いの体験をさせたいと川原まで降りていけるところをさがし、北上川の江刺より（桜つつみ公園の反対側）に行くことにする。りんごの花を見て、北上川の土手を通ってから、川原に降りて行く。

子どもの姿	保育者の援助
<ul style="list-style-type: none"> ・川の土手沿いを歩き、金ヶ崎橋の下をくぐって、川の間近まで歩く。「ここきたかみがわ？」 「さくらつつみこうえんでも みたよね」などと声。すると H男「ここもきたかみがわだよつながっているんだよ」と川を見たり、川沿いを散策しながら歩くことを楽しむ。 ・川原に着くと石を見つけ「いろんな いし ある！」「つるつる するね」「みて さかなの かたち！」「おにぎりみたい」と石に興味を持ち、自分の気に入った石を見つけ持ってきたビニール袋に入れていく。 ・川原で石なげをする。色々な大きさの石をなげ、音の違いや遠くまで投げることを楽しむ。 ・反対岸に桜の木が見え「あっさくら さいてる！」「さくらつつみこうえんだ！」と気づき「あっちに しゅくないがわ ながれているんだよね」とH男も友だちと嬉しそうに話す。 「かわって大きくて広いね」「川ってどこまでつながってるのかな？」と気になる子がいた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に下見をし、安全や歩くコースを確認。 その際に石を拾って帰り、「こんなの見つけてきたよ」と子どもたちに見せ、色々な形の石探しや石投げをして遊びたいと言う、期待を持たせる。 ・一人ひとりの発見や気づきを認め、一緒に散策を楽しみながら、川の様子の違いなどにも興味を持てるよう声をかけていく。 ・「～ちゃんのいしは何にみえるかな」など声をかけ、形から想像するようにした。 ・前に投げるように安全に気をつけながらも一緒に石投げを楽しむ。 ・一緒に気付いた発見、驚きや喜びを共感していく。

（考察）

- ・川沿いを散策し、石探しや石投げを楽しむことで、クラス全員の川への興味を深めることにつながった。

- ・H男は、自分の好きな川のことでもあって、友だちとの会話ややりとりも弾む姿が見られ、川での活動を通し、自分から友だちと積極的に関わる姿が見られるようになってきた。
- ・現在では、なかなか体験することが少ない川原での石投げを行い、貴重な体験であった。

園外保育③ 水沢競馬場（5 / 3 1）近くの北上川 ——かわが3つもあるよ——

「かわって どこまでつながっているの？」と気になる子どもたちに遠くまでつながっていることを知ってほしいと、水沢の北上川を見たいと水沢競馬場に行く際に、北上川に架かっている「小谷木橋」を歩いて渡ることを計画する。

子どもの姿	保育者の援助
<ul style="list-style-type: none"> ・橋を歩いて渡ることを知り、大喜び。どんな橋かな？どんな川が見えるのかな？と期待が高まる。 ・あいにくの雨天だったが、子どもたちは傘をさし喜んで橋を渡る。 ・雨天の為、川の水量は増し流れが速い様子に「みず いっぱいだね」「あめだからだよ」と天気によって変わる川の様子にも気付く。 ・橋を渡っていると3つの川を見つけ「こっちのほうが ゆっくりだね」「さっきより ちいさい（せまい）よ」「あっ またかわだ」「こんどは ほそい！」「ほそいけど はやーい！」と川の大きさや速さの違いにも気付く。 ・看板を見ながら、3つの川が北上川ということを知り「すごいね」「ぜんぶ つながっているんだ」と驚く。 ・保育者の言葉に「おんなじ きたかみがわだね」と気付いた友達にH男は「そうだよ。ぜんぶ つながっているんだよ」と得意そうに教えると「すげ～」と驚く友達に嬉しそうな表情をみせる。 ・「川のなかにさかなとかいるのかな？」と中に興味を示す子がいた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に下見を行い歩くコースを確認し、子どもたちに「金ヶ崎橋はバスで渡ったけど、今度は歩いて橋を渡るんだよ！それもながーい橋だよ！」と期待が持てるよう話をする。 ・事前の天気予報で、雨予報だったが、それもよい体験になると考え、雨具の用意をしてもらいでかける。 ・子どもの気付きから「どうしてかな？」と投げかけ一緒に考えたり、気付いた姿を認め、共感していく。 ・橋を渡り、一緒に看板をみながら、橋の名前や3つの川、全てが北上川であることを知らせる。 ・さらに「金ヶ崎で見た川も北上川だったよね」と今までの経験も思い出せるよう声をかけ、クラス全員で発見や驚きを共感できるようにしていく。

(考察)

・あいにくの雨天での園外保育となったが、川の様子の違いを見て発見があり、とてもよい体験となった。川の不思議さを感じ、より興味が高まった。

園外保育④ 狛鼻溪(6/6) (東山町) ——ふねにのってさかな みたよ——

川の中が気になる子、魚はいるのかななどの様子から、実際に川の中を見せるためには、舟に乗せる体験をしないと保育部会で提案すると、狛鼻溪での舟下りの意見がでて、早速計画をたて出かける。

子どもの姿	保育者の援助
<p>・舟に乗ることをしり、期待でいっぱいの様子。</p> <p>・狛鼻溪へバスで向かう途中、沢山の川を見つける。すると「ここなんていうかわ？」と興味を持ち、「H男くん どこ？」「H男くん ここなんていうかわ？」と子どもたち同士で聞き、H男も「ここはいさわがわだ」と喜んで答え、やりとりする。</p> <p>・狛鼻溪に着き「ここは さてつがわなんだよ」とH男。「さてつがわ？」「H男くんて かわのことなんでも しっているんだね」と友だちにも認められる。</p> <p>・舟にのり、舟下りを楽しむ。今まで見た川と違い、浅くて底が見える穏やかでとてもきれいな様子に「きらきら ひかっているね」「きれいな かわだね」と嬉しそう。</p> <p>・魚を見つけ、船頭さんに「なんていうさかなですか」と聞いたり、魚に餌をあげ「たべた〜」「ぴょんって はねた！」と一人ひとりが夢中になる。</p> <p>・一度舟を降り、川原で石投げも体験。バスの運転手で来ていた山地さんが石投げが上手く、水の上を石が跳ねていく様子に「すごい！」「どうやるの？」と興味を持ち挑戦。石選びのコツも教えてもら</p>	<p>・事前に期待が持てるよう話をする。</p> <p>・行く途中でも、沢山の川を見ることができたので、気付けるように声をかけていく。</p> <p>・子どもたち同士のやりとりを大切にし、見守ったり、一緒にやりとりを楽しむ。</p> <p>・保育者も知らなかった川の名前をH男が知っていて、改めて本当に川が好きという姿を認めていく。</p> <p>・舟に乗る心地よさ、川の違いや自然の気持ちよさを共感し、一緒に楽しむ。魚へのえさやり体験を通し、川の中の生き物にも関心を持たせていく。</p> <p>・川の様子・変化に気づけるように声をかけていきながら、目を向けさせていく。</p> <p>・一緒に石投げのやり方を教えてもらい、子どもたちと挑戦し、できた姿を認めたり、喜びを共感していく。</p>

<p>い、1回、2回と水切りができた子も見られ、「やった～ 2かいできた」と楽しんで遊ぶ。</p>	
---	--

(考察)

・川について気になるとすぐH男に聞こうとする姿がクラスの中に生まれ、川のことを通してH男の友だちとの関わりが広がってきた様子が感じられる。

園外保育⑤ 川のはじまりはどうなってるの？

川の恵みをいただく体験（魚を食べる）

「川ってどこからくるの？」の声に「千貫石つつみからながれているんだよ」とH男。そこでみんなにも知ってもらいたいと 秋の遠足で、千貫石堤に出掛けることにする。また、川の恵み魚を食べる体験をさせたいと和賀川ふれあい広場にでかける。

子どもの姿	保育者の援助
<p>◎千貫石ダム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ダムをみて「すごーい！おっきい！」と歓声をあげる。 ・看板を見ているとH男が「ここは ためいけなんだよ」と教えてくれる。また「パパに教えてもらったんだ」と得意気な表情をみせる。 ・看板の地図を見ながら、「すごい！ほんとに ぜんぶ つながっているね」と興味を持つ。 ・一緒にダムに来ていた4歳児に「ダムのみずは どこから きてるの？」と聞かれ、「あめとか ゆきがとけたみずがあつまっているんだよ」と教えてあげる姿も見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの思いに共感していく。 ・看板があることを知らせ、興味を持たせる。 ・H男に対し、「皆に教えてくれる？」と頼み、みんなの前で知らせてもらう。 ・看板には川の地図があり、今まで行った場所、見た川がつながっていること、堤から田んぼに水を流すことなどを確認することで、水の大切さを気付かせるようにした。 ・4歳児とのやりとりを見守り、知っている姿に「すごいね。よく知ってるね」と認めていく。
<p>◎和賀川ふれあい広場</p> <ul style="list-style-type: none"> ・和賀川を見て「おっきいかわだ」「3つにわかれているね」「いしも いっぱいある」などと色々なことに気付く。 ・公園内にある「やな場」で小さいあゆ2匹を食べる。1匹で申し込んだが、サービスで2匹なので、食べられるか心配したが、みな「おいしい」と喜んで食べ、 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりの気付きや発見を認めていく。 ・生き物も自然の食べ物として「いただく」ことを知らせていく。

<p>骨だけきれいに残して食べるので、びっくりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・和賀川の川原にいき、石投げ、石拾いを楽しむ。「つるつるのいし」「ハートのかたちあった」など一人ひとりが喜んで遊ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりの様子、安全を確認しながら、一緒に石投げや石拾いを楽しむ。
---	---

《 考察 》

- ・H男は、ダムにも詳しく保育者の知らないこともよく知っている。川をみると、H男に知らせよう、聞こうとする他児の姿が多くなり、仲立ちをしなくとも、友だちとのやりとりが十分に楽しめるようになってきた。
- ・ダムの水について聞かれた際、きちんと理解している姿に驚き、川の水の大切さについても感心や理解が深まってきている様子を感じる。

＜実践その2＞川の地図づくり

「宿内川ってどこからあるの?」「北上川はどうしてあっちにもこっちにもあるの?」と言う声があることを話すと、「そうだ ちずをかくといいんじゃない」とH男。そこで、朝の会で話題にして話し合い、地図をつくり、再確認することにする。

そこで、4つのグループに分かれ、描く場所を決める。実際に行った川を思い出し、次々イメージして絵を描くようにした。

子どもの姿	保育者の援助
<ul style="list-style-type: none"> ・グループごとに、「ここにかわがあって…」「さくらがさいてたよ」などと体験を思い出し話す。 ・H男はさくらつつみ公園へ行った時の地図を作る係りとなり、「こっちが きたかみがわで、こっちが しゅくないがわ」「きたかみがわのほうが おっきいんだよ」などと次々意見をだす。 ・イメージができあがり、話し合いで出たことを描き、はさみで切りぬき、模造紙に貼っていく。 ・「さくらのき かく」「じゃあ ぼくはかも」とそれぞれ描きたいものを話して決め、H男も「かえるもみつけたから かいてもいい?」と友だちに確認しながら描く。 ・それぞれのグループの地図ができあが 	<ul style="list-style-type: none"> ・模造紙を用意し、グループごとに園外保育で体験したこと、見たことなど話し合う機会を設け、出たことを絵に示していく。 ・川の大きさや、様子なども思い出せるように働きかけていく。 ・H男の姿に「そうだったね」と思いを認めていきながら、他の子にも「他にはなにが あったかな」と聞いていく。 ・「誰がなにを描けばいいかな」と様子を見ながら声をかけ、役割を決めることを促す。 ・話し合いながら行っている姿を「分担してやってて いいね」「自分たちで決めてすごいな」と褒める。 ・地図が完成し、どうするか話し合いを

<p>り、どのグループも満足気。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 保育参加日で、各グループごとにお家の人の前で張り切って発表する。 ・ 運動会では、グループごとに地域の人達に発表する。 ・ 文化祭では、ホールの「川コーナー」に展示した。 	<p>持ち、</p> <p>たくさんの人たちに見せようと提案する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 一人ひとりが張り切って発表している姿を見守る。
--	---

(考察)

- ・ 地図作りを通し、グループで話し合いながら協力してやろうとする姿が見られるようになった。
- ・ 地図が完成し、発表することで、一人ひとりがさらに川への興味を高めることができたようである。やはり実際に体験することの大切さを知った。

<実践その3> 川をテーマにした行事

お泊り保育 さくら組川まつり

園外保育でいろいろな川を見てきたことを小さい組に教えようと取り組む。

「舟下りコーナー」「石ひろいコーナー」「魚つりコーナー」「かき氷コーナー」と川に関する

遊びを展開し、小さい子にもつなげた。

運動会 テーマ「たんぽぽ川の話」

川を見たり、川での遊びの体験などを生かし、川の流れや川にいる生き物の表現遊びを取り入れた競技を考え取り組んだ

たんぽぽ川には、5つの小さい川がある。うさぎ川には、かめ。きりん川にはかえる。うめ川にはすずめ。ゆり川にはザリガニ。さくら川には魚が住んでいて、それぞれがリズム・競技・踊りの競技を行った。

その中で、ポスター作りや入場門、競技に必要な物もクラスで話し合い、準備していった。一緒になって準備をしていくことで、運動会への期待も高まり、一人ひとりが張り切って参加することにつながった。また、競技の中に地図を発表する場面も設け、小さい子、地域の方にも川での体験を知らせることができた。

・園周辺の川や水路にあみやバケツを持って生き物探しがはじまる。水路で魚を発見。たくさん魚を捕まえ大喜びし「先生、これさくらさんで飼いたい」「おれたちも運動会でさかなになったよね」と言って保育園に持ち帰る。またザリガニを見つけると「ザリガニはゆりさん(4歳児)だね」と帰るとゆり組の部屋に持っていく姿もあった。園に帰ると図鑑を見たり、観察したりする。

ミニ文化祭～たんぼぼ祭り テーマ「川はみんなの宝物」

これまでの体験から、川中心に園全体で作品作りなどの展示に取り組む。ホールに展示の製作では、各クラス川にいる生き物などを製作。年長児であるさくら組は、川で遊ぶ自分（人物）作りに取り組んだ。さらに、共同作品として、舟下り、千貫石ダムへ行った体験を元に、「舟」「ダム」を表現。それに加え、川は色々なところへつながっていることを知った体験から、ダムから川が流れ出し、たんぼや畑に水が流れこみ、野菜や稲が育つこと、最後は海につながることを、全園児の作品、各クラスの共同作品で表現し、「たんぼぼ川」ができあがった。「川コーナー」の部屋では・遠足で行った会話の説明。5歳児が作った石の作品・水の生き物コーナーでは、さくら組が水路で見つけた魚・かめ・ザリガニ釣りなども行う。「水を使って遊ぼうコーナー」では、舟をつくって舟流し・シャボン玉・スライム・物の浮き沈み体験などを行う。

発表会 「たんぼぼ川の不思議な石」

年長組の話し合いの中で「かわのおはなしがいいね」「かわのなかにいくおはなしは?」「さかなとか ざりがにとか でてくるおはなしがいい」「ふねにのるおはなしは?」「いしを さがすのはどう?」…など色々な川を見たり、今までの体験からイメージを広げ、意見を出す子どもたち。その思いを大切にし、さらに職員で台詞・踊り・歌・衣装のアレンジをして台本をつくる。

劇練習が始まり、年長児が中心となり行う発表会、自分たちで考えたお話とあって、一人ひとりが張り切って取り組む。自分の役割を理解し、小さいクラスの友達をリード、自分の台詞を覚え大きい声で言うこと、踊りや歌も覚え、一人ひとりが一生懸命取り組み、それぞれの役を楽しんで表現していた。

H男は、すぐに台詞を覚え、大きい声でいうこともできた。とても意欲的に参加し、友達と一緒に表現することを楽しむ姿が見られ、発表会当日も堂々と張り切って参加する。

7 考察

- ・川の取り組みが全園児の取り組みへとつながり、高まることができた。
- ・H男もクラスのみならずと共通体験をすることで、友だち意識が芽生える。

8 研究の成果と課題

- ・H男の川への興味から様々な川を見に行った活動を通し、友達との関わりも増えていった。4月当初は一人遊びが多かったが、「川博士」として友だちに認められ、「川のことならH男くん!」と頼られることで、自信も生まれ、自分からも友だちに関わろうとするようになり、現在では気の合う友達ができ、一緒に遊ぶ姿が見られるようになった。
- ・H男の興味から始まった活動だったが、クラス全体を巻き込み、実際に色々な川に

出かけ様々な体験をすることで、全員が同じ興味関心を持って活動に意欲的に取り組むことができた。クラスの中で友だちを認める姿が生まれ、仲間意識が高まってきたのではないか感じる。

- ・今後も、子どもたちが興味を持ったことを更に膨らませていきながら、体験が高まるような魅力ある環境設定を行い、保育者と子どもたちが一緒に創意工夫を重ね、遊びを発展させ、一人ひとりが十分に楽しめる保育を進めて行きたい。